

環境健康科学研究教育センターがHokkaido and Melbourne Joint Research Workshopを開催

環境健康科学研究教育センターは、8月4日（月）～7日（木）に医学部百年記念館において、Hokkaido and Melbourne Joint Research Workshop「Bridging Health: Integrating Child, Adolescent and Young Adult Well-being across Melbourne and Hokkaido Through Cohort Studies」を開催しました。

本ワークショップは、北海道大学の戦略的国際パートナーシップ校であるメルボルン大学とのHokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund（北海道大学ーメルボルン大学

合同研究ワークショップファンド）において、北大側の代表教員として本センターのアイツバマイゆふ特任准教授が採択され開催したものです。メルボルン大学側の代表教員はスーザン・ソーヤ教授で、今回はソーヤ教授をはじめ6名の研究者が来訪されました。

ワークショップには、長期追跡中の2つのコホート研究：本センターによる「環境と子どもの健康に関する北海道研究（北海道スタディ）」とメルボルン大学の「子どもから成人への移行研究（Child to Adult Transition Study: CATS）」の研究者が集まりました。

参加した研究者は、互いの専門知識と方法論的なアプローチを交換し、思春期から青年期の健康に関する研究における重要な課題について実践的な議論を展開しました。また、将来の共同研究イニシアチブを推進するための機会についても議論されました。

今後も国際的連携と学際的アプローチを通じ、世代を超えた健康問題に取り組む研究活動を継続的に推進し、科学的根拠に基づく政策提言や社会実装を進めていきます。

（環境健康科学研究教育センター）



ワークショップの様子



記念撮影